

情報安全教育の開発と適用

瀬川良明 北海道教育大学 教育実践総合センター

1. はじめに

今時の子どもにとって生まれたときからあるインターネットは当たり前の存在である。1999年登場したi-モードケータイも同様である。しかし、大人である学校教員、保護者ともインターネット・ケータイについては、経験に裏づけられた自信があるわけではない。インターネット・ケータイを使った事件や犯罪がある度にセンセーショナルに繰り返し報道されることが不安に一層拍車をかける。

ICTの功罪が問われる中、子どものインターネット・ケータイ利用に対する教育が必要であることに異論はない。しかし、「だからインターネット・ケータイがいけない」と、かんたんに道具のせいにしてしまう一部の論調は短絡的である。

子ども達に対しては発達段階に応じた交通安全教育のような情報安全教育が必要であるとともに、保護者や学校関係者に対する啓蒙活動も必要と考える。

今回、2004年8月神戸大学で開催されたPCカンファレンスのイブニングトークにおける「家庭でのインターネット利用」以後の実践を中心に、その概要等について報告する。

2. 問題の所在

小学生のインターネット利用に関する調査¹⁾からは、インターネットをはじめめる年齢の低下、ネットに関する知識も子ども上位の傾向にあること。別の調査²⁾からは、小中学生の約2割がネットでメール・チャット・掲示板を利用しているが、親の4人に1人がその実態を知らない、ネット利用の内容について親子で話すことがないという実態が浮かび上がった。これらの調査からは、子どもがパソコンを使える環境が家庭にあるが、親が子どもの使い方を把握していないという現状が垣間見える。

一方、学校現場では、情報モラルに関する指導の必要性を感じてはいるが、コンピュータの使い方と

いったマナー指導の段階に留まっていると推測される。対策的な対応だけではなく、学校教育全体の中での取組として位置づけていくことがポイントになる。児童生徒への指導の前提として教師への研修が必要なことは言うまでもない。

3. 小樽市教育委員会との連携

平成17年度北海道教育大学地域貢献推進経費により、小樽市教育委員会と連携した「保護者が子どもと一緒に考えるための情報モラル・ネチケット」事業を行った。本プロジェクトの特徴は3つある。

一つは保護者を対象とした啓発事業であること、二つは全市を対象とし、大学と市教育委員会が連携した事業であることである。三つはICTの技術的な面を追体験するのではなく、このことをきっかけに、家庭における親と子のコミュニケーションをより充実させてほしいという点を基本的なコンセプトとしたことである。

(1) パンフレット

A4両面カラー印刷のパンフレット5千部を作成した。パンフレットの編集は本学大学院「情報基礎特論」を受講の現職教員らを変え、市教委指導主事室との共同作業で行った。2005年4月、小樽市立中学校14校を通じて家庭へ配布した。2006年4月には、内容を一部加筆した改訂版を同様に配布した。

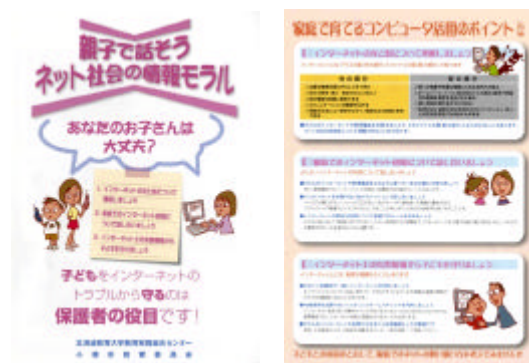


図1 配布パンフレット

(2) 体験教室

保護者対象の情報モラル・ネチケツ教室を実施した。2005年1月小樽市立中学校コンピュータ教室を会場に、小中学校の保護者約20名が参加し、実際にコンピュータを操作し、インターネットを体験してもらった。2006年1月にも同様の教室を開催した。参加者による意見交流を行ったところ、前述の利用調査と同様、親が子どもの使い方を把握していないこと、対応に自信がないという現状が明らかになった。

なお、本プロジェクトに関連して、2004年7月に市民ホールで実施した一般市民対象の市教委主催の講演会「情報社会での親子のかかわり」には約150人が参加した。

4. 公立中学校における安全教室の実施

札幌市立中学校で学校図書館開放事業の一環として情報安全教室を実施した。2005年8月、校長はじめ授業のない先生方も参加する中で、体育館に集合した2年生4クラスを対象に「ネット・ケータイ安全教室」を実施した。1年生5クラスについては、クラスごとに授業として実施した。



図2 配布資料

夏休み期間中は事故が起こりやすく学期明けに顕在化することが多いから、実施時期は夏休み終了後の2学期ではなく1学期末までに実施すべきだったことが、終了後のアンケートからも読みとれた。

5. 教師教育における取り組み

大学を会場にする現職教員を対象とした学校図書館司書教諭講習、10年目経験者研修では、配布テキストの一項目に関連サイトを集約したリンク集を用意している。実際にアクセスしてもらい、事例を体験してもらうとともに、参加者との意見交流を行った。リンク集は、2000年頃から学部の授業用に開発してきたものをベースに、学生による人気ランキングを印で示したものである。

サイト名	内容(対象・形式)	実施地
インターネット利用上の注意(情報通信の匿名性)	子ども向けテキスト	札幌市
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html		
ネット教育の進め方(匿名性・セキュリティ)	児童向け保護者向け(Web形式)	伊丹、DEO
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html		
情報通信教育資料集 vol.2	小学生、若年層向け(印刷・Web形式)	札幌市教育委員会
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html		
匿名性 子どものネット利用	子ども向け(Web形式)	札幌市教育委員会
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html		
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html	子ども向け(Web形式)	札幌市
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html		
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html	子ども向け(Web形式)	札幌市
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html		
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html	保護者向け、子ども向け(Web形式)	札幌市
http://www.its.ac.jp/~info/edu/edu.html		

発行: 立命館大学

図3 リンク集

6. おわりに

先日、道内のある地域の研究会に出席する機会があった。研究交流では、その地域で実際にどのような情報教育が行われているかが報告された。中学校技術家庭科の技術では「技術とものづくり」に重点を置く学校が多く、「情報とコンピュータ」は、タイピング練習や、新聞制作といったレベルである。

教師自身も情報モラル教育の必要性を認識しているが、情報モラル教育を実施している事例は非常に少ないことが分かった。

だからこそ、教員養成に係る者として、学校現場の要望に応え、出前講座のようなものを積極的に展開すること、10年目経験者研修など現職教育を通して、学校現場のニーズに応えることができる研修コースを開発し適用したいと考えている。

参考資料

- 1) goo リサーチ, 「小学生のインターネット利用に関する調査」2004
- 2) 日本PTA全国協議会, 「青少年とインターネット等に関する調査結果」, 2004